

# 組合士 アラカルト

中小企業組合士制度創設35周年、  
全国中小企業組合士協会創立25周年記念式典から

## 「これまで」と「これから」を見据えながら

### 通常総会ならびに記念式典開催される

去る6月13日、東京・竹芝のホテルインターコンチネンタル東京ベイにおいて、全国中小企業組合士協会連合会平成20年度通常総会が開催され、平成19年度の事業、収支決算等の報告ならびに平成20年度の事業計画、収支予算等が議案として審議され、全会一致で承認された。

さらに、今年は中小企業組合士制度創設35周年、全国中小企業組合士協会創立25周年に当たることから、長尾尚人中小企業庁経営支援部長、法師人稔商工中金専務理事をはじめとした関係各機関・団体からの来賓を迎えて、その記念式典が開催された。

記念式典では、長年にわたり中小企業組合士として組合運営等の活動に携わり、その功績を認められた組合士の方々への表彰式が行われた。

表彰は、中小企業庁官表彰が10名、全国中小企業団体中央会会長表彰が36名、全国組合士協会連合会会長表彰のうち、



表彰に臨む佐藤保子さん

協会運営功労者には13名、優良組合士には21名の方々に授与された。なお、各表彰の総代各氏は、これまでのそれぞれの組合経験を振り返りながら、次のようなコメントをくださった。

### 先輩が育ってくれたのが一番の喜び

中小企業庁長官表彰総代の佐藤保子さんは、開口一番、自分の後に先輩が続いてくれたことが30年余に及ぶ組合職員・組合士として何よりの喜びだと語ってくださった。佐藤さんが奉職したのは秋田県電気工事工業組合。「男社会」の組合の中で入職6年目には事務局長に就任、組合運営を牽引すると共に、自ら進んで

組合検定試験にも挑戦、栄えある第1期の組合士として秋田県下では女性2人のうちの1人となった。このような佐藤さんの背中を見て育った同組合の女性職員は「後に続け」とばかり組合運営に熱心に取り組んでおり、事務局職員14人中8人が組合士資格を取得しているという「専門家」ぞろいの組合を実現する原動力ともなっている。

そんな佐藤さんは、「組合員の平等を体現するのが組合士の役目です。私は、それを前提に、『出会いを大切に。健康と優しい思いが広がりますように』を座右の銘として活動してきたつもりです。この思いを先輩たちにも引き継いでもらいながら、一組合一組合士が実現されることを強く願っています」と組合士への思いを語ってくださった。

### 「組合に入ってよかった」と思ってもいいんですよ

全国中小企業団体中央会会長表彰総代の、広島県中小企業組合士会会長・寺西

志公さんは広島県広告美術協同組合事務局長も務める。「組合の主役はいうまでもなく組合員の皆さんです。組合職員、その職員を牽引する組合士は黒衣です。だからこそ、組合員の方に組合に入ったメリットを見つけてあげること、組合に入ってよかったと思ってもらえるよう常に心がけて組合を運営しています。組合員の組合からの脱退理由が廃業だけとなることをめざしています」と日々の職務への思いを語ってくださった。

組合士となって8年余だが、県組合士



佐伯全中会長から表彰を受ける  
寺西志公さん



功労者表彰を受ける  
中嶋姉子さん

会に入ったことで他組合や県中央会とのネットワークを強化することができ、それが非常に組合運営に役立ったことも指摘する。現在は県組合士会会長の立場にもある寺西さんは、そのような自らの経験も踏まえながら「異業種交流などを活発化し、組合士の世界を広げるきっかけ作りに心を配っています」とのこと。これからも組合に役立つ事業、運営を目指して行きたいと今後の抱負も語ってくださった。

### 周りに流されず本当の姿は何かを問いつける

全国組合士協会連合会会長表彰の協会運営功労者総代の調布管工土木事業協同

格を取得して自己研鑽を積み重ねていると、仕事についての射た発言や対応ができてきたのではないかと自負していると言う。「そうは言っても、私自身は淡々とやってきただけ。今回の表彰も不思議な気持ちです。けれども、女性が組合業界に入ることによって視点が変わることもあります。むしろ、これからは女性もいないと世の中が動いていかない。そういう認識がもっともっと広がり、当たり前になるといいですね」と今後への希望を語ってくださった。

### 厳しい業界環境の中、組合と組合員を牽引し生き残りへ

優良組合士総代は鹿児島県共同配車セ



優良組合士表彰を受ける  
宮崎一仁さん

スになるあらゆる情報を提供すること、情報を常にキャッチできるよう、関連団体とも交流・連携して情報のアンテナを高く広くすることを心がけています」と日々の心がけを語ってくださった。

組合士を目指したきっかけは会計や法律を自分のものにしたとの思いからだとのことだが、それは着実に実務、特に決算面で役立っていると実感されている。そこで常に前向きに受け止め、組合と組合員を牽引して、生き残りを図って行きたい」と抱負を語ってくださった。

### 中小企業組合の新たな役割としてのCSR

式典後は、記念フォーラムが開催され、「企業の社会的責任と中小企業組合の役割」と題して、古川浩一中央大学総合政策学部特任教授が記念講演を行い、企業の社会的責任（CSR）についての最新動向等の解説と共に、中小企業とCSRについて中小企業組合の訪問事例等も交えながら、今後、CSRは組合が積極的に関わりうるテーマであり、特に環境問題や子育て支援等労働問題について、組合が果たしうる役割は多いとの示唆に富む提言がなされた。

その後、講演を受けて「企業の社会的責任を中小企業組合が果たしていく場合のポイントを考える」をテーマにパネルディスカッションが開催され、①保育園を設置し、女子労働力の確保を実現する

と共に地域住民への門戸も開き、子育て支援の側面から地域貢献を果たしている郡山食品工業団地協同組合（福島県）、②全国の電気工事工業団体としてはじめてISO14001の認証取得を果たし、地域の住宅への電気保安検査サービスなどを提供している他、オール電化住宅普及センターを設置し組合員と地域住民双方に役立つ場の提供を行うなど地域貢献を進める埼玉県電気工事工業組合、③資源リサイクル、資源共同回収、省エネ活動の推進、CO2削減への調査研究など「ゼロエミッション団地」を目指す神奈川県内陸工業団地協同組合がそれぞれの活動を紹介、それらに基づき、中小企業組合がCSR活動に果たしていく役割、可能性について活発な討議が行われた。

記念式典は、各総代の発言に見て取れるように、これまでの歴史の裏打ちが確認されるとともに、中小企業組合、中小企業組合士の新たな可能性、方向性が提示されるまさに記念すべき日となったのである。

